



東京八王子プロバスクラブ

創立 1995 年 10 月 18 日

気軽に交流を楽しむクラブ

2013～14 テーマ —優れた運営の仕組みを継承し、会員活動をより楽しくしよう—

第 19 回臨時総会

日 時：平成 25 年 7 月 11 日(木) 12:30～14:00

場 所：八王子エルシィ

出席者：69 名 欠席者 3 名 出席率 95.8%

(会員総数 72 名休会 0 名)

1. 開会 戸田例会委員長の司会で開会

- ・本日の資料の確認と出席
状況報告
- ・お客様：全日本プロバス
協議会 森山功幹事長



2. 挨拶 荒会長



配布資料に記しましたが今年のテーマを次のように掲げました。「気軽に交流を楽しむクラブ」—「優れた運営の仕組みを継承し、会員活動をより楽しくしよう」—ここで意味する交流とは、「会話(おしゃべり)」のことです。しかし、会員各位はご自分の分担業務を遂行するために、交流を楽しむ余裕が少なくなっているように感じられます。当プロバスクラブには、先輩各位が長期にわたり努力を重ね築かれてきた優れたクラブ運

営の仕組みが完成しています。これを継承しながら、何とか交流を楽しむ時間をより多く生み出せないか、生みだして欲しいなと思っています。

次に、八王子「宇宙の学校」についてですが、この事業は小学校低学年の生徒を対象にして、大変人気のある又当クラブにとっても夢のある事業です。しかし、クラブの中での位置付けは委員会組織とは別の「会長直轄プロジェクト」となっており、又会員各位がボランティアとして参加する仕組みになっています。そこで当期は、そろそろ支援の組織・機能についてしっかり研究する時期かと考えています。

最後に 20 周年記念事業のことです。「20 周年記念日は平成 27 年 10 月 18 日」です。過去、5 周年、10 周年、15 周年とそれぞれ記念事業を行っています。当クラブとして意思決定を早期に行い、何をすべきか議論を始める時期が近づいていると考えています。

3. 議長選出

恒例により会長が議長を務めることとなり、議長が会員総数 72 名の内、出席会員は 69 名であり、本総会が有効に成立したことを宣言した。

4. 書記 1 名、議事録署名人 2 名選出

書記に佐々木正会員、議事録署名人に阿部幸子会員、山口三郎会員が選出された。

5. 議事

第 I 号議案 (2012～2013 年度一般会計決算報告)、第 II 号議案 (2012～2013 年度活動準備金特別会計報告) が川村前副幹事から、更に第 III 号議案 (2012～2013 年度第 17 回生涯学習サロン特別会計決算報告) が橋本鋼二前地域奉仕委員長より報告された。又上記 3 議案一括監査報告が中野会員からなされ、適正である旨が報告された後、上記 3 議案が承認された (尚、決算書及び監査報告

書の日付は平成25年6月30日とすること、及び生涯学習サロンの剰余金は新年度から本部会計に繰越金として戻入記載されることが確認された。

第IV号議案（2013～2014年度一般会計予算案）、第V号議案（2013～2014年度活動準備金特別会計予算案）が竹内副幹事より提案され承認された。

6. 議長退任

7. 閉会

第213回例会

日時：平成25年7月11日（木）14:00～15:30

場所：八王子エルシィ

出席者：69名 欠席者3名 出席率95.8%

（会員総数72名休会0名）

1. 挨拶 荒会長

先程の総会で挨拶したので省略します。

2. お客様の紹介とご挨拶

本日のお客様である全日本プロバス協議会幹事長の森山功様が紹介されご挨拶を頂いた。

「全日本プロバス協議会の本部が関東に移って参りまして、横濱プロバスクラブの加藤と私が会長と幹事長を務めさせて頂くことになりました。どうぞ宜しくお願い致します。明年は関東で第6回の総会を開催する事になっておりまして、私共未熟でございますが、どうぞ皆様方のお力添え、ご協力を宜しくお願い致します。本日はお招きいただき有難うございました。」



3. バースデーカード贈呈



今月も池田会員手作りのバースデーカードが、荒会長より浅川、岩島、澤渡、高取、濱野の5名の会員に贈呈された。

4. 幹事報告 馬場幹事



(1) 委員会構成表の改定

前回配られた構成では運営が難しいとの地域奉仕委員会からのアピールに基づき会長との相談の結果一部変更。即ち研修委員会所属であった橋本鋼二会員に地域奉仕委員会に移って頂く。なお、例会委員会の野口会員、根本照代会員のお二人には過去のご経験を生かして地域奉仕委員会の活動にご協力頂くということで、各委員会のご理解に感謝。

(2) 幹事、副幹事の活動方針

- ・幹事、副幹事が協力して、会長、副会長を補佐し明るく楽しいクラブ運営を目指す。
- ・その為に、会員のみならずとの良いコミュニケーションを心掛ける。

(3) 竹内副幹事の分担

予算及び会計関係と“びおら”関係

(4) 理事会での確認事項

- ・会員が例会に配布するチラシの件
公的なものは予め理事会に提出して承認が得られれば可。例会開始1時間前までに例会委員会に必要部数（80部）を持参のこと。それ以外は、例会当日受付に置いて会員に取ってもらうことは許容する。（但し政治、宗教関係は不可）
- ・「ハッピーコイン」記入上の注意の件
ハッピーコインに記載されたことはそのまま「プロバスだより」に掲載され、ホームページにアップされるので、個人情報として差し支えないか否かは会員各自で注意して頂きたい。

5. 委員会報告（新年度活動方針を中心に）

(1) 例会委員会 戸田弘文委員長

楽しい例会を演出しようというテーマのもと会員同士の親睦が一層深められ会員が出席したくなるように、出来るだけ多くの会員に発言して貰えるような活動計画で一年間実施して行きたい。具体的には

- ①当委員会は受付、資料配布、集金の分担を定

め各委員が確実に実行する（例会時は必ず受付を通してください）。

②例会時間配分を見直し、テーブル会話時間の確保、食事時間の充実などを実施して行く。

③卓話の時間を弾力的に考え、例会を一層楽しくする。

④配席に工夫をし、多くの会員間の交流が出来るようにする。委員会・自由席・委員会混合席等。

⑤ハッピーコインの一層の促進を図り、バースデーカードは継続作成を依頼する。

(2) 情報委員会 田中信昭委員長



活動方針は次の3つ；

①親しみやすい「プロバスだより」の編集・発行～例会情報をより簡潔にし、会員情報をより充実させる事、なるべく多くの会員に登場してもらおうという方向で進めたい。編集の為の「マニュアル化」が進んできているので、より多くの方々に編集に参加してもらえるような体制を目指す。

②ホームページの充実と管理体制の定着～この度リニューアル・オープンしたホームページへスムーズに移行すると共に、管理体制を定着化させる（掲載内容に変更が発生した時は、毎月第3木曜日までに各担当者から矢崎会員に連絡してください）。

③生涯学習サロン抄録のスムーズな編集・発行～基本的には既存路線を踏襲する。

(3) 会員委員会 荻島靖久委員長



新年度は会員数を3名増やし75名としたい。又平均年齢より若い人に入会いただき、会を若返らせたい。活発に活動できる人の入会を望んでいる。

新しい会員名簿を作成配布したが、抜けがあったので修正します。

(4) 研修委員会 河合和郎委員長

①基本的には従来からの研修委員会としての事業を継承し、発展させる。

②野外研修については一泊も考慮に入れ、アンケート調査をするので本日中に回答をお願いし



たい。11月の例会日に実施する。

③卓話の運営についてはアンケート調査結果に基づき、又会長方針とも合致するので、「気軽なスピーチで話題を広げ、全員参加が可能になる」よう、「プロフェッショナルな専門性」も基本にしながら、柔軟な運営を行う。新会員の積極的な登壇にも配慮してゆく。差し当たり8月の卓話は「戦争体験を語る」ということで考えている。

④出前授業については近隣クラブとの交流や出前を必要とする団体等の発掘に努力する。

(5) 地域奉仕委員会 内山雅之委員長



これまで築きあげられてきた実績とノウハウを大切にしながら着実に実施して行くという基本姿勢の下に

①生涯学習サロンでは、「魅力あるテーマを準備し活性化を図る」と共に「気軽に交流できる楽しいサロン」を実現して行きたい。

・開校式、閉講式の特別講話のテーマと講師の選定については、会員の協力を得て情報を収集し計画を推進していく。

・講座数は前年同様4講座ずつ3週で合計12講座を計画する。

・一般講座の話し手はプロバスクラブ会員を中心とするが、会員以外でも協力が得られる講師と魅力あるテーマがあれば依頼することも検討する。

②その他の地域活動については、「いちよう祭り」ほか地域の行事には従来ベースで積極的に参画して行く。

(6) 交流担当 浅川文夫理事



昨年は近隣クラブとの交流が卓話や同好会の交流という形で実を結んだ。今年もこれらの継続に加えて、お互いの例会に参加し合うというような交流を実現し、誰でも行けるようにしたい。

6. 「宇宙の学校」報告 下山邦夫委員



(1)八王子「宇宙の学校」の本年度計画；配布した2通のパンフレットにもあるとおり、今年は従来より早く7月13日から八王子北高校で、又7月14日には教育センターで開校式と第1回スクーリングが始まり、合計8回が既に計画されています。支援の会を通じて皆様にはご協力頂き感謝申し上げます。

(2)子供・宇宙・未来の会 KU-MA が今年5周年事業を行います。(7月28日と8月25日)参加希望者は申し出て下さい。

(3)7月17日に宇宙教育指導者セミナーが開催され、当クラブからも25名が参加予定です。

この活動も3年目に入り、さらなる飛躍に向けて活動して行きますが、当クラブにおける支援の組織や機能について今後のやり方を研究して行く年になろうかと思っています。

7. 同好会報告

お茶の会：竹内会員



近藤会員の退会に伴い新しく会長は宮崎会員に、又今まで私が担当していた世話役は川村会員に代わりました。

尚、8月は休会です。

ゴルフ、歴史、写真、囲碁、麻雀、美術鑑賞、俳句、旅行の各会は何れも報告なし。

8. その他

(1) 池田会員、伊藤会員

一筆箋「はちおうじものがたり」紹介



池田会員と伊藤会員から「ボランティアネットワーク」の紹介と今年から八王子らしいお土産として売り出し始めた一筆箋「はちおうじものがたり」の紹介があった。6種類の実物が披露されたが、その中に池田会員の「やまゆり」と「高尾すみれ」の絵も入っており、

売上は町おこしに役立てられる由。“くまざわ書店や夢美術館他市内各所で販売されるようになりました。国体でも一役買うこととなります。皆さんどうぞご覧頂きお買い求めを。”

(2) 廣瀬会員



八王子が戦火に遭った事を子供たちに伝えようということで、今年も8月1日～5日迄東急スクエアビルで「平和展」が開催されます。色々な展示や催し物がありますので、皆様ど

うぞお立ち寄りください。

9. プロバスソング斉唱



10. 閉会の挨拶 土井副会長

皆さん今日はわくわくしましたか。私も当クラブに入会して17年目になります。なぜ続いたのでしょうか。それには好奇心を刺激されるということがあったでしょう。しかしそれ以上に大事なことがあります。一回会っただけだと判らなかつた人も、長い間付き合うと心が触れ合うようになるものです。これからも永くお付き合いをしましょう。例会だけでは中々わくわくしない。人間は楽しむことが生き甲斐に繋がります。何を楽しみにするかは人により異なります。知的好奇心を刺激すること、体を動かすこと、文学のような情緒的なこと、ものを作ること等、色々あるでしょう。我がクラブには沢山の同好会があります。



皆さん是非同好会に入って夫々の満足を得るよう努力され、生き甲斐に繋げて下さい。そしてどうぞいつまでも若く！

ハッピーコイン

本日の会の冒頭にハッピーコインの紹介があった(今年度は土井副会長から披露されることになった)

◆左眼の白内障手術後1年で白内障再発(後発白内障というらしい)YAGレーザー手術で元に戻り安心。今後は判らないが、手術に完璧はない。

武田洋一郎

◆新体制の発足を心からお祝い申し上げます。小生7月7日で74才となりました。

澤渡進

◆全日本プロバス協議会森山幹事長をお迎えしました。ごゆっくりお過ごし下さいませ。

立川富美代

◆新年度の情報委員会メンバー全員からです。今年も皆様方からのハッピーな話題の提供を宜しくお願い致します。

田中信昭

◆炎暑極暑にめげず生きている事をハッピーと思ひ。

渋谷文雄

◆新たな年度が始まりました。会長はじめ役員の皆様ご苦労様です。クラブの一層の発展を願ってやみません。

佐々木正

◆吉田前会長はじめ前期役員の皆様、大変お世話になりました。荒会長はじめ新役員の皆様、今期の運営をよろしくお願い致します。

佐々木研吾

◆新しい期に当たりプロバスの益々の発展を共有したいと願っています。

土井俊雄

◆シルクロードを旅してきました。大地の広さとトルファンでの摂氏45度と云う高温も体験してきました。

内山雅之

◆ついに大台に乗る。生かされていることに感謝。

浅川文夫

◆前吉田年度に感謝を込めて、そして荒会長新年度に心からエールを送ります。

杉山友一

◆先月末、腰部の激痛に見舞われ、急遽、根本洋子会員のお世話で右田病院に駆け込み、何とか復活できました。

杉山友一

◆1年間に難うございました。旧役員一同

吉田信夫

◆78回目の誕生日を迎えた。大宮(埼玉県)よ

り長男夫人と長男長女の4人の合唱で楽しい催しだった。合唱も旨くなった。

濱野幸雄

◆ハッピーコインの担当が終わりました。1年間のご協力ありがとうございました。

山下安雄

◆1年間よろしくお願い致します。

戸田弘文

◆男声合唱団・横浜グリークラブの60周年記念演奏会が9月7日に行われます。男声合唱の魅力をたっぷりお聴かせ致します。

八木啓光

◆先日昔のベストセラー小説「コンチキ号漂流記」の映画「コンティキ」鑑賞、皆さんに進めたい作品でした。

野口浩平

◆あっという間に1年が過ぎて、又ひとつ年を取りました。健康に恵まれて年を重ね、プロバスに参加出来てハッピーです。

岩島寛

◆年を重ねることの大変さ、大切さを感じながら、新しい年度が始まりました。各委員会力を合わせて楽しみたいものです。

宮城安子

◆心筋梗塞の手術後7月9日で満4年経ちました。やはり嬉しいものです。これが5年10年となりますよう、プロバスで頑張ります。

土井俊玄

八王子「宇宙の学校」報告

運営本部 情報担当・有泉裕子

開校3年目に入った“八王子「宇宙の学校」”は、今年開校を7月とし、従来より3か月早めて、子どもたちが夏休みを活用して宇宙の学校の家庭学習を出来るようにし、昨年度に引き続き2会場で開催する事になりました。都立八王子北高等学校会場(以下北高会場)では7月13日(土)に、同校と市立松枝小学校、陶鎔小学校の地域連携の形で開催、31組の受講者が参加しました。本部会場では翌7月14日(日)に教育センターに受講者74組が参加し、それぞれ第1日目のスクーリングを開催しました。

北高会場 開校式・第1回スクーリング

北高会場では、坂倉仁八王子市教育委員会教育長の挨拶・開校宣言で始まり、下山邦夫運営本部長挨拶、北高須貝徳成校長先生の挨拶と続き、KU-MA 山下法昭先生による参加者向けのガイダンスがありました。

坂倉教育長は、「宇宙の学校では、お父さん、お母さんも一緒に学んで頂き、家庭に戻ってから家庭学習に取り組んで子どもさんの向上心を育ててください」と挨拶されました。また宇宙の学校をバックアップされた方々や地域開催へ協力頂いた八王子北高へ御礼を述べられました。

須貝徳成校長は、「宇宙の学校の地域連帯活動に共鳴し、担当された杉中淳先生、北高の生物化学部の生徒たちも熱心に対応しました」と挨拶されました。

第1回スクーリングのテーマは「熱気球を上げよう」でした。熱気球がゆらゆらと体育館の天井まで上昇する様は、子どもたちばかりでなく、一緒に親御さんにも、大変な興奮をよび大人気でした。大空への夢をいだかせる素晴らしいテーマでした。

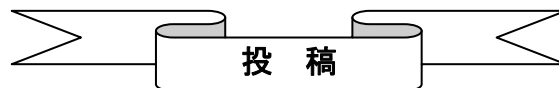


本部会場 開校式・第1回スクーリング

本部会場でも坂倉仁八王子市教育委員会教育長の挨拶・開校宣言で始まり、来賓の大石正人株式会社スリーボンド秘書室室長の紹介があり、広浜栄次郎宇宙航空研究開発機構（JAXA）宇宙教育センター宇宙教育推進室室長の「宇宙の学校のお話」がありました。

坂倉教育長は、「宇宙の学校はいろいろな事をしてもらって将来学校、勉強が好きで、ここはと思ったことは一生懸命調べるような子供達になってほしいと開いた学校です。家庭学習でも親子で一緒に学び楽しんでいい親子関係を築いて下さい」と挨拶されました。広浜推進室長からは、「宇宙の学校は地域の皆さんとの出会いの場、発見の場、学ぶ楽しさを実践できる場です」という旨のお話がありました。

第1回スクーリングのテーマは「葉脈標本でしおりを作ろう」「紙トンボであそぼう」でした。出来上がった紙トンボを親子共々夢中で飛ばす様子は暑さを忘れさせてくれました。猛暑の中の開校式・第1回スクーリングでしたが子供達もお父さん、お母さんもそして主催者、スタッフも頑張りました。



千秋楽を迎えて

鈴木弘昭



プロバスケットボールに入会して1年になりました。過去に立派な業績を残し、今なお高度な知識と体験を生かし、社会貢献されている皆様の仲間入りをさせて頂き光栄です。初めての投稿で耳障りなところがあると思いますがご容赦ください。

男の人生75歳、良かったこと、悪かったこと、嬉しかったこと、悲しかったこと、75歳を5年刻みに区切って見ますと丁度お相撲さんの1場所15日間になります。その区切った5年間の時代が白星だったか、黒星だったか？過去を振り返り全勝の方は少ないでしょう。私は72歳、人生場所も14日目が終わりました。

戦時中疎開先でひもじい思いをした事、受験に失敗してやけになった事、妻に先立たれ途方にくれた事、親孝行や子育てをおろそかにして後悔している事、一方再婚して多くの子供や孫に恵まれた事、皆様のおかげで信用金庫の仕事を50年続

けられた事、そして多摩地域の将来を見据え3金庫（多摩中央・太平・八王子）合併に貢献できた事、今でも健康でボランティア活動が出来る事等々、この70年間は7勝7敗の星取表となりました。

今私は千秋楽を迎えています。願わくはこの最後の5年間（実質はあと3年）は金星で飾りたいと思います。そのため過去のことは忘れ、微力ながらボランティア活動に力を入れ、勝ち越しを目指します。所属する団体は20か所以上あるのですが、なかでも私の思い入れのある所を紹介します。

1 「小さな親切運動」について

昭和38年3月東京大学卒業式に置いて茅誠司学長が提唱したもので「できる親切は皆でしょう。それが社会の習慣となるように」をスローガンにして間もなく50年。私は昭和62年から参加し、武蔵野市副代表として活動中。

2 「中学生」の税についての作文について

次代を担う青少年の租税教育の一環として、税務署都税事務所、各市の納税課、教育委員会の協力を得て応募活動を展開。武蔵野納連の会長として活動中。昨年は23校2441編の作品が応募された。エルシィ八王子1階に長い間財務大臣受賞作品が掲示されていましたが、ご記憶にあるでしょうか。

3 地域の絆、町会活動について

とにかくやればやるほど雑用の多いボランティア活動。馬鹿ではできないが利口な方は引き受けない仕事。町の安全安心を目指し、交通、防犯、防火対策。学校や各種団体、神社、子供会、老人会、青少体、スポーツクラブ、コミュニティーセンター等の連携。町内夏祭り、町内運動会、盆踊り、防災訓練等の行事開催。しかし誰かがやらなければならない活動、町会長として4年目に入ります。

千秋楽もあと3年。その後は本当の余生だと思い、残ったエネルギーは再開した書の腕でも磨いて、好きな芝居を見ながら静かに暮らしたいと考えています。そして晩年はいい人をやめ、楽観的に人に気を使わず、責任を取らず、何でも人のせいにする生き方をして長生きしますか！！

甲子園の思い出

米林伸恭



今年も全国高校野球大会の季節となってきた。今やこの大会は国民的行事と云えよう。この舞台が甲子園球場であり、過去様々な名勝負、熱戦が生まれた。

甲子園球場は、その言葉通り甲子の年、即ち大正4年に第1回大会が豊中球場で開催され、10校が参加して始まる。その後第3回大会から鳴尾球場で開かれるようになり、甲子園球場で開催されるようになったのは、大正13年の第10回大会からである。そして第19回大会（1933年、昭和8年）準決勝の中京商対明石中の延長25回戦の熱戦をはじめ、数々の名勝負が生まれた。

戦後の第28回大会（1946年、昭和21年）は、終戦直後の食糧難の時期にもかかわらず開催され、又甲子園球場が米軍に接収されていた為西宮球場で行われ、翌29回大会から再び甲子園球場に戻された。

その後第40回大会（1958年、昭和33年）では、アメリカの施政下にあった沖縄が戦後初めて参加、この時初めて西宮球場との2会場開催となった。沖縄代表の首里高校が、甲子園の土を沖縄に持ち込めず大きな話題になっている。この大会では準々決勝の徳島商業（投手坂東）対富山代表魚津高校（投手村椿）の延長18回引き分け再試合が話題になった。

1962年（昭和37年）の第44回大会では、栃木の作新学院が初の春夏連覇の偉業を達成した。

1969年（昭和44年）の第51回大会では、松山商（井上）対三沢（太田）の試合が春夏通じて初の決勝引き分け再試合となる。さらに昭和54年の第61回大会では和歌山の箕島高校が公立高校として初の春夏連覇を達成し話題を呼んだ。

そして1992年（平成4年）の74回大会では、高校野球史上大きな事件が起きた。高知代表の明德義塾対石川代表の星陵高校戦で、明德が星陵の4番松井秀喜に対し5打席連続敬遠をしたことが大きな話題になった。この試合を私は息子とネット裏で観戦していたが、ツアーアウトランナーなし

の場面でも敬遠、場内は騒然としていた。明徳の投手は河野、勿論本人の意思で敬遠をしたわけではなく監督の指示によるものである。試合は明徳が勝ったが、この敬遠策について世論・マスコミは総じて明徳に厳しいものだった。勝ちにこだわるのか、正々堂々と勝負すべきか、高校野球も学校教育の一環であり、その意味で勝ちにこだわるべきではないというような意見が大勢を占めていたようだ。

3回戦で明徳は、広島工業に敗れ甲子園を去ったのだが、この時の明徳の投手河野はその後専修大学へ進み、投手を断念し外野手として活躍、社会人野球を経て、アメリカへ渡りメジャーを目指したが夢かなわず帰国している。

一方星陵の松井は、ご存知の通りで国民栄誉賞を受賞するほどの活躍をし、2012年引退、現在はアメリカが生活の拠点になっている。

この5連続敬遠は両校の選手達のその後の人生に、いろいろな意味で大きな影響を与えたのではないかと思う。特に私が気になるのは星陵の5番打者と明徳ナインの心境である。敬遠の後を打つ打者として相当のプレッシャーがあったと思う。ヒットが出ていれば星陵は勝ったかもしれない。そんな気持ちを引きずっていたのではないか。また明徳ナインから「甲子園などに来なければよかった」との発言があったとか言われているが真相はわからない。ただ明徳馬淵監督は、敬遠策を事前に決めていたふしがある。地元高知新聞とのインタビューのなかで、それとなく敬遠策を匂わせていた記事が掲載されていた。

いずれにしても、甲子園と云う華やかな舞台で、その後の人生に大きな影響を及ぼす出来事もあったと思うと複雑な心境にならざるを得ない。

今年も6月末の沖縄県の予選を皮切りに、8月の全国大会へと高校野球のシーズンが到来する。どんな熱戦、好試合が展開されるのか楽しみである。

毎月の歩好会

田中美代子

私が退職した後に、ご近所のご婦人が3名お見えになり、「子育てが終わり、八王子に住んでい



ても知らないところが多いので是非あちこちへ連れて行って欲しいです」と主人に話に見えました。出来るだけお金をかけないで、健康維持の為、歩きを中心として考えてくださいますとの事です。主人が「歩くのを好む会」なので「松子舞歩好会」と命名し、月1回（毎月第3水曜日）実施するように夫婦二人で計画を立て始めました。

記念すべき第1回は、平成22年1月6日「招福開運八王子七福神巡り」でした。参加者は20名で八日町4丁目にてバスを下車し、あとは全部歩きでした。巡った後は全員で昼食です。人数が多いのでお店に予約を入れておきますが、しかし雨天中止となるので事前交渉しておきます。

2回目の2月は、美しい雑木林が広がる小宮公園から道の駅の散策でした。

会を重ねて今月の6月で39回目となります(年齢は平均68歳位、参加者は20名前後)。季節感を考慮しながら行先を議論し、決定したら必ず夫婦二人で実踏に出かけます。バス時間・所要時間・トイレ場所など調べて、もう一度検討し「大丈夫ね」となれば、自治会の掲示板3か所に「行き先と行程等のお知らせ」を貼り出しお誘いします。例えば「八王子みなみ野にある自然豊かな公園散策と日野自動車21世紀センターの見学」、「北条氏照が築いた八王子城に行ってみませんか」、「ジャージー牛のいる磯沼牧場でおいしいミルクと染め物工場の見学」等々。張り紙をご覧になって「今回は行けそう」「1度行ってみたかった所」などご自身で判断され参加してくださいませ。

時には内容に変化をもたらすために、一泊二日のバス旅行(草津温泉・熱川温泉と河津桜)や日帰りバス旅行(大月発電所・国会議事堂と築地市場・梅祭りと皇居東御苑)も実施しました。28人乗りのバスを貸切り、松子舞から出発し松子舞に帰宅なのでとても好評でした。

今までで一番の思い出は、22年7月に実施したコースです。元八1丁目-バス-今熊登山口-徒歩-新多摩変電所-徒歩-金剛の滝-徒歩-広徳寺-徒歩-昼

食（お蕎麦屋）-徒歩-五日市駅-バス-元八 1 丁目-徒歩-松子舞（自宅）。

自然の中の散策なのでアップダウンがあり、下の滝まで行くには命綱のロープを手にして、狭い急斜面を降りていかなければなりません。みんなで声を掛け合い、助け合い、安全を確認しながらなんとか全員で目的地に辿りつけました。その後、頂いたお蕎麦と飲料水が、もう美味しく、美味しく。真っ赤な頬で達成した喜びと爽快感で、清々しい笑顔がとても素敵でした。みんな頑張ってくよく歩きました。

今月は「ホテルがでる湧水群に出かけてみませんか」と題して、叶谷榎池と泉町湧水群を中心に散策しようと計画しています。

歩きながら道端の花に微笑みかけたり、野草の香りをかいだり、遠くで聞こえる小鳥のさえずりを聞けば「あ、ホトトギスだ」「あ、ウグイスだ」「あ、シジュウカラだ」等と声を掛け合ったり城山川や大沢川を通れば「カルガモ・カワセミ・セキレイ」などを見つけ喜び合っています。「目・鼻・耳を働かせて楽しみながら歩くことにより、心が安らぎ」精神的にも身体的にも健康が保たれるような気がします。

八王子は豊かな自然に恵まれ、更に歴史・文化もあるので、今後もいろいろと探索し、「参加して楽しかった」「今月も良かったね」と云う声を励みに「松子舞歩好会」を続けて行こうと思っています。

徒然のままに

伊藤涼子

プロバスクラブに入会させていただいた今、原稿依頼を受けてから、本当に久しぶりに考え込んでしまいました。以来自己分析ばかりが浮かんできて、文章を書くということは、知識・経験・己の確立した思考が必要不可欠であることが、10数年振りに思い起こされました。

さて私が書けることは何か。自己分析を書いたところで皆様には何の興味もないことです。やはり教職にあったことに関連した徒然を書くことにしました。

今日 6 月 30 日、元音楽専科仲間であった友の

スタジオで、何のご縁か教え子の一人がライブをすることになり招待されました。子供の頃は、無口で、少し心の乾いた感じがあり、他の子供達に比べ自己表現の少ない女の子でしたが、今日の演奏は、抒情的に、繊細で、静かに聴衆の心に沁み込んでくるものでした。声変わりした彼女の語り口と相俟って、歌声にも深みを感じました。この 10 数年の彼女の成長を、目を閉じて体中で受け止めて聴いてきました。

堅実な家庭に育った彼女のことですから、音大へ進み充実して、健全な人生を歩んできたであろうことは容易に想像できますが、ピアノのタッチや、選曲・曲の表現から、まだ若い彼女の人生にも平坦でない何かがあったのかもしれない。お母様から、お礼の言葉をいただきましたが、彼女の人生の内、たった 3 年間をご一緒しただけの私です。このような成長を見せてくれた彼女にこそお礼を言いたい気持でした。

もう一人、彼女の友達が私の隣に座ってくれました。勿論教え子の一人です。彼女は、ヘルパーの資格を取り、病院や高齢者のお宅に伺い、忙しく働いているとの事でした。彼女の幼い頃は、なかなか気が強く、個性的な女の子でしたが、ヘルパーとして得た事や悩みなど、私のボランティア経験で得た事と共通することが多く、話に盛り上がってしまいました。彼女からも人間としての成長を知らされ感動といとおしさを覚えました。

私は、人間が好きなのです。十人十色、何とも味わい深いものと思います。

千人同心と興岳寺について（前篇）

土井俊玄

最近の高齢社会になってサラリーマン生活か



ら解放された大変多くの人々は、ようやく自分について振り返ってみる余裕が生まれたかのように見えます。自分のあるいは父や母の故郷に思いを馳せたり、己のルーツを探してみたい欲望に促され、故郷に帰って役所や菩提寺を尋ねて先祖を辿る事等をしている方を何人か知っています。

そして又この八王子を終の住処としようと決めた方達は、八王子を知りたいという気持ちも湧くのでしょうか、史跡めぐりの団体の多いことに驚かされます。私が住職をしている興岳寺は、市の指定史跡があるせいか歴史散歩とか、史跡めぐりの団体がひっきりなしと云って良い位に訪れてくれます。そこでこの際千人同心について書いてみようと考えました。そしてそのついでに興岳寺の歴史についても少しばかり述べてみたいと思います。

千人同心については、すでに沢山の書籍が巷間に溢れており、大方の人達にご存じの事と思いますが書いてみましょう。

曹洞宗に属する萬松山興岳寺の開基家は千人頭（千人同心の長）を務めていた石坂家で、開山は隋翁舜悦禅師です。石坂氏は石坂を名乗るようになって2代目の盛信が、文禄元年（1592年）に創建しました。この寺は千人町にあります。千人町の名称は千人同心が集住したので、この名がつけられたわけです。しかし、千人の同心が全て住んでいたというわけではなく、市内本立寺の過去帳によれば「五百人町」と云う名称が記されています。この名称の初出が寛永18年（1641年）であり、その後元禄2年（1689年）になって「千人町」と云う町名が出てくるわけですので、最初から千人町と呼ばれていたのではなかったのです。（この稿はまだまだ続きます。来月号をお楽しみに）

~~~~~

俳句同好会便り 河合和郎

私の一句～7月の句会から

同好会がスタートして早や1年半余が経過。メンバーが二桁になった。うち女性が4人。とても賑やかですぞ。兼題は「夕焼」。

稜線に夕焼け映えて鳥啼く 阿部治子

よく見かける日常の光景をそのまま作品に。今日も一日平穏に暮れた。そんな安堵感が。

気だるさに一陣の風すもも食ふ 馬場征彦

気だるさを覚える夏の午後。ほっとするような一陣の風。李の酸っぱさが活を入れてくれた。

夕やけ空昭和に生きて恋もして 渋谷文雄

昭和は良くも悪くも懐かしい。激動の昭和、恋せし青春のときめき。追憶のドラマが……。

はまなすや海に遊びし遠き日々 石田文彦

俳句は遠い思い出も鮮明に再現してくれる。それが俳句の持つ魅力。思い出が生んだ佳句。

夕焼をひと筆刷いて相模灘 池田ときえ

景の大きい見事な秀句。絵筆の表現でも17文字の俳句でも、豊かな感性が溢れ出る。

シーツ干す竿に動かず蝸牛 立川富美代

日常経験する状況。作者の困った顔が浮ぶ。「朝顔に釣瓶取られて……」の句に負けてない。

雨押して播きし絹さや双葉出し 田中信昭

苦勞して蒔いた種が芽を出したときの感動が伝わってくる。句としてもまとまっている。

夕焼けの緋の帯見ゆる航跡に 飯田富美子

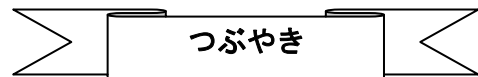
作者は大景を詠むことが得意。揚句も海の夕景の美しさを詠んで佳句。「緋の帯」が印象的。

バス停に急ぐ近道草いきれ 東山榮

生活感がよく出ていて、うまくまとめている。特に「草いきれ」の季語の斡旋がいい。佳句。

夕やけ空昭和の句ひ遠くなり 河合和郎

思い出の中にある夕焼けと今の夕焼けは色が違うように感じる。思い出色は褪せないのだ。



「つぶやき」のコーナーを復活させたいと思いますので、どんどん原稿をお寄せ下さい。

編集後記

初めての編集作業、諸先輩のマニュアル化のお陰で随分楽になっているのだとは思いますが、かなり骨の折れる作業でした。‘先達はあらまほしきものなり！’



(田中信昭)